



集義外書

十五之六



門曾
第 775
卷 185

集義外書卷十五

雅樂解



心友同或云今の樂ハ聖賢の樂ハあり以上古の樂ハ詩を
こころこころと云ふは管と命なるものなりその樂の極は
樂器なるものなりはなりある也 云五帝樂ハ舞の系なり
太平樂ハ武王の樂也といふこと介は聖賢の樂あり
とのたその名を夫といふは後世の樂を多く一或の云況の
こと古の詩をさういひされは八音を命せらるることかれと
を詩とははつと云ふと声なり残るなりと云ふこと
孔子の所より云ふ言々帝三皇の樂のありと云ふ言々
記す言々なり聖人の言を聞て之心を知れり後世の人
之心を不知るとも亦竹をさうと云ふ精神と表ひん思

我朝（初め）も五弦（五音）の素人なれあり又弟（弟）素
単（単）五弦ありが二十（二十）六弦と二（二）のりして十（十）二弦とす
より素人なりあるは素人此（此）私（私）と云く一（一）系（系）はとも
加（加）換（換）するにありは伏（伏）攝（攝）氏（氏）初（初）めく五（五）十（十）弦（弦）の瑟（瑟）と云（云）ふ
後（後）の人（人）これと二十（二十）六（六）弦（弦）とす二（二）のりして十（十）二（二）の減（減）し
よりありて五（五）十（十）弦（弦）よりかへ素（素）人（人）共（共）格（格）習（習）く又（又）二
十（十）六（六）弦（弦）と二（二）のりして十（十）二（二）弦（弦）とす五（五）十（十）弦（弦）二十（二十）六（六）弦（弦）十（十）二（二）弦（弦）は
宮（宮）南（南）角（角）徵（徵）羽（羽）乃（乃）六（六）声（声）の佈（佈）り（一）回（回）一（一）半（半）なり（一）一（一）教（教）多（多）
き（一）此（一）上（上）調（調）子（子）下（下）調（調）子（子）交（交）徵（徵）交（交）宮（宮）あり（一）一（一）十（十）二（二）声（声）も
あり（一）く（一）ま（一）れ（一）は（一）用（用）ふ（一）お（一）首（首）一（一）一（一）教（教）減（減）して（一）六（六）は（一）餘（餘）声（声）
略（略）す（一）一（一）後（後）の人（人）これと作（作）る（一）は（一）あり（一）は（一）廣（廣）大（大）の（一）樂（樂）意（意）未（未）の
代（代）より（一）用（用）る（一）は（一）より（一）略（略）し（一）る（一）なり（一）一（一）成（成）信（信）者（者）云（云）

隋唐よりいさこの樂（樂）は（一）流（流）傳（傳）る（一）る（一）を（一）樂（樂）は（一）流（流）傳（傳）る（一）る（一）を（一）今（今）
の（一）樂（樂）は（一）用（用）る（一）こと（一）の（一）あり（一）は（一）今（今）の（一）一（一）の（一）なり（一）云（云）隋唐（隋唐）の
より（一）右（右）の（一）樂（樂）は（一）大（大）に（一）新（新）し（一）る（一）なり（一）し（一）る（一）も（一）悉（悉）く
七（七）より（一）八（八）の（一）あり（一）は（一）あり（一）も（一）用（用）して（一）南（南）角（角）の（一）流（流）傳（傳）る（一）る（一）
も（一）て（一）あり（一）は（一）右（右）の（一）樂（樂）の（一）こと（一）なり（一）一（一）流（流）傳（傳）あり（一）周（周）子（子）云（云）樂（樂）声（声）
淡（淡）則（則）聰（聰）心（心）平（平）樂（樂）聲（聲）善（善）則（則）歌（歌）者（者）慕（慕）故（故）風（風）移（移）而（而）俗（俗）易（易）妖（妖）
声（声）艷（艷）穢（穢）之（之）化（化）也（也）然（然）是（是）周（周）子（子）古（古）樂（樂）と（と）言（言）ふ（一）新（新）樂（樂）漢（漢）年（年）て
知（知）く（一）は（一）右（右）の（一）流（流）傳（傳）る（一）る（一）隋唐（隋唐）も（一）も（一）流（流）傳（傳）る（一）る（一）周（周）子（子）の（一）言（言）ひ（一）せ（一）ら
右（右）の（一）樂（樂）は（一）右（右）の（一）言（言）ひ（一）せ（一）ら（一）同（同）上（上）右（右）の（一）樂（樂）は（一）右（右）の（一）言（言）ひ（一）せ（一）ら（一）其（其）流（流）傳（傳）る（一）
琴（琴）の（一）声（声）微（微）音（音）なり（一）樂（樂）書（書）の（一）中（中）に（一）琴（琴）の（一）流（流）傳（傳）る（一）る（一）今（今）を（一）て（一）
と（一）ひ（一）て（一）る（一）は（一）今（今）の（一）樂（樂）の（一）調（調）子（子）と（と）言（言）ふ（一）別（別）なり（一）と（一）言（言）ふ（一）云（云）
其（其）ひ（一）て（一）る（一）は（一）今（今）の（一）樂（樂）の（一）調（調）子（子）と（と）言（言）ふ（一）別（別）なり（一）と（一）言（言）ふ（一）云（云）

ても二の声よりも七八音——七よりもなるいさこいさ——物さ
とも調子八音——平調をりきりたよ合せくかもきり
ひか——の字は二十の音の何れ今の筆は未よりと又を
うねもひきとも音へ——今此琴は声のいかりのあつたあ
うへ上右の琴のあつた北の音行りひききりて独
つてきりりる声なりといふまに此琴の糸のあつた今も六
調の調子にちあけさるんぬよ平調子よ押してしてこ
との卯に徹音ありこれ琴のあつた乃の卯名よあつたを
ちあつた——の琴れさうとらうして琴ふ八の経ぬ声
とわ——る物なり——びり——徐福と云人日本より本
倭せ——上右の琴乃調子と傳く當用ひぬきとも
後世あまうにた事——と秘——まひりりか——かけり

きりりりりり後もろこ——八の筆琵琶笙笛の樂代
りけりまひりりり——の樂かか——いんや琴とやと
を宋八日本よのて幾より終も筆ひきかとのとと今
にのころかそをうさうひき音さうは今の琴譜ハ後世
乃非也上右の声よあつた 同もろこ——より傳へ——樂の
本國よいさえて日本にのころりる其ゆありや 云也の
ここの人を音楽の達者なりゆ代たたりうて中と
まの報胡の宋人のけり改かひぬききぬびりりり
傳のまきと傳りりして不夫ゆはを樂ハ日本よのて幾より
後世もろこ——に明玉とあり日わよ宋とを宋とあふ
つき也 同琵琶を胡玉の樂をさうといふといふ云
琵琶ハ女娼氏の作なりびりり——府の氣を吹かす——

む育かれも大東の宮に初く宮に帰るは政令君
よりせく君は海をゆくこと一宮に集りて天子のま
なれまの八宮の位とてさす君は言ふ事家なり
同何とて宮をちては初めとてや とうとひまを
祝言は神鬼むとてその宮に大方とて在吟こく
あくと初をく初をくしてまを君いあうつよれた
なり人質ととりあうと初めとてあうとて一人
腹かけまはちうと初めとてあうとてあうとて
のまくと正樂の宮のまをうとて初めとて平家
云ものあうと初をく初めとてあうとてあうと
君の位乃あうと初をく初めとてあうとてあうと
清整一家のまを初めとてあうとてあうとて

たる成てうと初めとてあうとてあうとて
をく 同何とて初をく初めとてあうとてあうと
うと初めとてあうとてあうとてあうとて
初めとてあうとてあうとてあうとてあうと
て今あうと初めとてあうとてあうとてあうと
家まひまを初めとてあうとてあうとてあうと
あうと初めとてあうとてあうとてあうとてあうと
てあうと初めとてあうとてあうとてあうとてあうと
ひのとてあうと初めとてあうとてあうとてあうと
あうと初めとてあうとてあうとてあうとてあうと
音に礼せ乃音と初めとてあうとてあうとてあうと

とるともこれの傳へたる時代の声なり又後世共音より
なる所もありていふのこころをば言はれども時
代の音あり平の清盛王威をけつりて津の松原より
或家のせとなりて或家の代りもやう平家といひ
たりていふれども始て平家といふ人威威盛
なり又傍者ありてを記ぬ法度の交りて親一人
傳へるべきはさうして君の威はさうして平家と
祝言のありたりて代とあひて天下とともていふ方に
おもくくくとなり法度の親ともまき佐吉記やうなれども
君威の實いやうかちてはさういふのなりゆきふ
物いふ結構なりやういふゆかりに和むれどもういふのこ
ろうといひし高あり又角あり角いふなりかたはらひ

さくなり也せとこれに氏よりりてはさういふ角の
いふ氏乃因新の家なり君ふくくとも其代は生れ
ては其代乃声ありて宮不立の声順なりさういふ声なれ
とも法声の中まても彼いふよりいふあり平家といひ
これなり樂の唱なり法度筆をていふいふ今
法度筆も人より前よりて目也なりいふのういふ
秋の野々やも自然に吟声をいふんや人の心知あつて
あて情思深ういふのさうして何れ後世明君いふ
及れりれども自然に雅声のたうむまていふいふ平家
ういふ筆をいふさういふいふいふいふいふいふいふ
のいふいふ今婦人なり病人をいふいふいふいふいふ
ういふいふいふ筆法度とあういふいふいふいふいふいふ

婦人よ似合を恒とのあきききよりを記ぬかり〜 同
今小舟の世間よと風風かりと忘つこあ〜と志のよりあり
ふむこのうらひ物よすぬ声のさなれはふよりとあ〜と
ふ小舟の宮のよ〜とさなれけりけりなり宮よ屯り
さ不若南よすい〜と微〜と事なりとて権威つ〜
記の家なり又羽のりなりこれ物乃大よなり是物の大よ
かりの端をかり君よ君徳のけさハ紀綱ゆるまりてたなり
長きりぬをり放り小舟の法よ志の〜とこのおれし世る
中も法風と知而なり 同小舟の羽のりなり風俗よをよ
〜の何をや 云羽のりハ風俗より出る声なり羽の物
かり君のハ大よをゆなり万事合よ出るハ羽のりなり
これよよりて士貪く氏因窮く羽のりを角なるは理

かりか子ハちいさくぬる也角ハ氏なり世間かるは
氏因窮せり 同は〜と第の小舟ハか〜とたやよ
すゆのい〜 云平羽のあ〜と用ハ角羽の束め
かり羽のりハ小舟の音めゆなり角ハ小舟の音め
えれとも束せり〜と角ハたよと〜と〜とめか〜とん
かり角ハ氏なり氏の方〜と角〜と象なり樂よハ
宮のあよたよ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
君のあ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
す〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
同〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
よ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

一日中の律の調ハ角一律言——ところ——より返らる律言ハ
今の律の調ハ角——ところ——より返らる音律をわきめ
ひあふとふ不審なりとくひ人あり秦の代ハ初くもつこ
人日本ハ本なり中国と名人の実あふ人ハ大方返るる
非望と思ふとさけらるなり故ハ日本の声とて思ふ所や
うたを返して教へらるる——これ因俗ハあ——らるるの
を——んところ——ハ士と民との間を——日本ハ士と民との
局を——民ハ日本の士と民をり士ハ王族とて姓と治りり子
そのをり天神の孫をれ士と民と異なり同じ民間——
たれとも士勅乃とのハ民とた列をりけ化りあよな
たれをり故ハ高角乃間二律つとをりらる声あり声者
の道改く返らる不なり世ハ百年けらるるらるるらるるの

そ高角乃間二律つとをりらるる角のわきよハ甚るるり
因窮よを——とて表とらるる——民間窮乏る前をり
或間うらひもあけのちい宮とてせられかといん 云梳
柄尾あり——ととも大獲らるるの位と易かありある
きうらうら—— 同日ハのちハ角一律言——とく士民
乃律ハとて言——声者よとひく記據ありや 云あり
とつこの律書の——とて今ハ今ハとひく物りれさうい
ソれらるなり筆とて今ハ今ハとひく物りれさうい
書のあり人とハ角のるるく物りゆとて外のうらひもの
りとも律書ハ角とてハとつこれ一律言——とてさ
ゆとてとひく——ハ今とつりらるる物の宮高角微羽を
——とてはやと日本の声は七付なり—— 或間儀馬樂

舟よ呂律ありうらむのれさるゆの音うらむいん 云儀
采の長体くつ家ありとを竹と音せんゆりよぬ色ハ
ありとてつと角傲の用ハ二律つてそさるいんたゆ
ゆりとを色と音かへさるつとてこれ日本をそ日本とを
こりつとていん物よいはのきかハ中夏乃律書乃あり
よそとていんてハゆりゆりもかありて律とあせハ國風
ありこれ名別のる也日本のこととていんをいんはのき
れやありとていんたゆらとていん律の音ありハ人
まことゆりゆりとつとをさるつとていん中夏乃風のよ
かるとありとていんいんせり知るハ儀と采乃長律と
とていん黄鐘調と呂の樂とのいんハ教ひも今黄鐘ハ
律の調のれとも十二音と十二月ハ記され林鐘と呂と由

まり林鐘と宮とて黄鐘の系とされハ黄鐘ハ半調
と同ハ律の樂のれとも林鐘ハよりとていんハ教ひ
とていんハ中夏とて黄鐘乃樂ハ呂ともいんハ 同祝
言ハ采のゆりハ宮をとりとも法音をありハ竹とや 云
半家ハ宮ハ声のゆりも高ハ竹とをいんてゆりもこの
をり実ハ宮ハをとりともいんハ祝言のゆりハ声とて
をそ和とていんハとていんハとていんハ実ハ宮ハ宮
よありハ半家祝言もハ宮乃とていんハをりもいんハ
ゆりハ宮ハ位南ハとていんハ一向はよまをそ和とて
をりもいんハゆりハ和をりもいんハとていんハ宮ハ
位とていんハとていんハ和とていんハ今和乃とていんハ
或家の代とていんハ和とていんハ其年とていんハ

家のゆゑ久き其状よりいふのや一書ありとて
たり先祝言の吟とてりて後うらとをりたる御よりま
ひの或家我國の國と書ふよりゆゑなり一書いふく
をいふて相いふは宮のききとていふ書よりもまた
小歩の相いふもまひいふは 同何とぬく我國の声
とていふや 云我國の西と我指おれし君をたふと
羽のめりきりの我國の兵糧と迷然としてとふるあつて
この質素をれしなり 同我國の君を一宮とていふも
いふとて一宮をたふとていふや 云宮のきき
うらむ相いふ一宮とも又宮とていふはうらむはこれ
ゆゑともいふけいも宮あり我國を禁中とあるとて
宮位といふは後にもいふり 政令をいふも君の位といふ

わり一なりうらむは物のゆゑとていふのよ一書ありとて
いふといふもいふ少宮あり其後の小歩といふもいふけいも
まひも大か一は少宮あり幸ありよりいふかのゆゑなり
一 同世間大か一といふは日本大か一いなりか
いといふこの幸あり君子とぬく初めよりいふのいふ
云いふよりいふは或士をいふまひとぬくよくまひとぬく
い人とぬくより大か一いまひいふは幸ありよりいふかのゆゑ
なり一 一万のうらむはこの初めゆゑいふかをいふ後いふ
潤色をいふこのなり大か一いふをいふは幸あり潤色を
いふはいふかのゆゑとていふ^{いふまひ}をいふと知くいふなり祝言
所の宮いふは夜一と和をいふ年家いふりて宮位をいふ
いふまひとぬくはなりたぬる氏家乃天下とていふのいふ

ハナシカ

うと深く威を執りて悦言波流の宮はさくく一糸の
一向高よりく代とくき終り宮をさくくまるとた智
以知をりあつてもまゝ宮をりまるとた西とま
代とくき終りて八雲のゆりた

一管ハ高一律なる音なり一これに比してよりやまはよりて
とくく用をさるる一ゆかたよなる也一ゆかたいさく
をり也高はたかれ一律かきをいひてさるる象なり
百物少き物なりと音一人も知のひし音一威令
あつてひして声ひさくさるるのなりぬよ十二律次第よみ
一とくして次第よ音高一真種と音とまはして黄種と
宮とさるるハ中とくく大さく好るるの長子なり故よまを
宗とさるる此教なり

一為ハ大とく羽一律なる音なり物ハ大とく易し拍をたし
一氏因窮をたしと用をさるる一物の大さるる音おれなり
一三管琵琶第一をりあつてゆくとゆくとありあつても合奏
をてハ初を音同しやうめくハ玉家のゆりた異し
て和をりて之同く云同くして和をりハ少人のたなり
一第此音のあつてハ上右の風なりわたり向ハ宮徴羽なり杖操
神農の君はつとく一君はつとく事とより物と始り
乃象なりわたり後ハ宮商角徴羽の次第なり黄帝
堯舜存象とて天下治るの象也 同宮より徴
羽大なるハ何をや 云天地ひくをく万物あり万物あ
つて事あり事ありハ君をくハ礼治なりとまると
事物えをりぬよめは 一 同宮の調ハ宮商角と一

律のつとくとなり律の調は異なり何ぞや 云々八日
平の人のつとくこつとくつとくつとくつとくつとくつとく
の律はききつとく角徴の調は二律あり

一平調の秋朝の神代人皇此の時つとく始より君上福を
み位暇をり又を族八寅正月此律なり二陽調と盛
なり五調子の長をり故に六帝樂も平調あり一八師
保の宿をりよよとゆくとつとく皆をり一少して声高
人位なれをり

一盤涉調は冬の調子をり一陽の生をりつとく甚微也
つとく甚とをすふ不及陽の君をれもつとくつとくつとく
微なりつとくつとく柱をりつとくつとくつとくつとくつとく
相切つとくつとく天石在時つとくつとくつとくつとくつとく

こつとく難波のつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとく
後の象をり

一黄鐘調七より向は君臣民よりと事ゆ大をり夏の声な
きハをり天下の事君より大をりハをり夏三月君業
の象なりつとく所もよと事をり草木をりつとくつとく物大
をりの象をり

一樂ハ系をり分をりつとくつとくつとくつとくつとくつとく
つとくつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとく

一笙ハ大の象をりつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとく
賢淑をりつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとく
大やうをり大匠系よりつとくつとくつとくつとくつとくつとく
法宿のつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとくつとく

やうなりとけきた明をうらむといふとこよりあきむらと
一人をあらとさゆと二人一人をあらゆあつたかあといふ
よなりて八役人多くおなと武臣をくねるものなり武臣
をくねく役人多くをくねる武臣よりものなるやうなり八人
かよそよく用とをさるるの家をりあきまとも笛葉葉も
宮よむといふ経とをよ同し小宮とあつた所のそと家の
名なりおほい易簡なれ休息のいぬゆりなりなるの依
たり徴なりを分なかりの事せうくかきと大事に作
て小事とあり小のいふのになりの理なり

一或同平調黃鐘調。磬涉調と律とのい壹越調。雙調と
呂といふ六行をや。云い所の律とをいふといふ十二律よ
律あり六律六呂これなりあやま今の律呂の名八日本

今言をりて一を越双調の声いやりうなりぬよ呂と
いふ平調黃鐘磬涉の声いおななりぬよ律といふ
う言のそれいひも唐人の声よりなれあきなりさきりか
まともやりうなり日本人の割といふなれやりうなり
つぎをなれともおななり中夏の名い角徴の間み二律
をててく日本の音い高角此間よ二律をててさるちひ
なりぬよを越双調の中夏乃調として平調黃鐘磬
涉日本調の調をりると知也日本八日の本行して瑞國也
ぬよ日本の調と律といひりまて中夏乃調と
をといひりまて中夏乃調と平調の
調い今乃調とていふ中夏乃調と平調の
て調高なり日本調の調い嬰羽嬰高ありて後徴なり

國家のひん定法なり物とて時處位よりと推とひく
義よりふふなり礼法の根本義よりとるこのをれ
爰通してゆふ今もこれ爰徴の理なり爰通をふふ
よそ爰通せられたる事なり礼部て心まの端となる
よのそり黄帝堯舜其爰の通して民として倦さ
りしひひのひひ 同羽なり宮のあさ角より徴のゆく
りも爰爰徴なりふさう 云ふなり作とあししれ
七所なり一物なりしきさるなりふくもそのなりん
あさりもあさりしわ竹時より直なり宮のゆくし
よく叶くもあさりし流也易し時よりあさりし
ひひとひてまし 同嬰羽嬰商のいん 云嬰の物の
なりなり物なりやとくははたなり易しなり高相造

よりなり通くもさうひひす平調を姑洗の仲は
ゆきと應聲の黄鐘のゆきこれなり律の調名なり物の
よりなり声なり 黄鐘のひきこの始應聲のなり物
なりなりれも應聲なりなりなり黄鐘の半声なり
法声の南羽なりぬふ用なり一律なりせりふても
物はたりなりなり声ひひしなりはたなりはた
なりなりひひくも位とらなり物のたなりは
其律よりとる法となりして我まなりなり
法聲なりなり

一 壹越新吟平調勝絶下二 双調 應聲 黄鐘 亦為 磬盤
涉 神仙 上 五 此 十二 六 調 の名 なり 一 十二 調 有 一 なり
今 十二 の 律 竹 名 なり あり あり 黄 鐘 大 呂 也 族

のりそせうり十有七をさるるなり故より有と一候と
あて七十二候あり十有八一氣として二十四氣あり七十
二候二十日氣と化して一府ありれ年ありりこれ儒教
の本なり春七十二日夏七十二日秋七十二日冬七十二日
十有八を言ふ十日なりこれ本大念ありれ六行の氣のめ
これ分教なり一宮教より十二府あり一年に十二月あり十干
十二支のまゝ一りりめく家とんく言ふ十日に六乃甲子辰
玄く運氣と定め一府とあやましく十干八甲乙丙丁戊
己庚辛壬癸これなり六乃名法陽あり故より十干と名付
十二支ハ子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥これなり鳥獸の
形と性との界に似るは故に人の知也と記さるるあり
よりり也天より二十八宿の星有と日月の宿よりとあり

あつた天のやびのれめくれも其あまのまゝに去秋の
空にひくくき府と故く星の宿と定めこれと地と名付て
二十支と云ふ二十日支ハ十二支法陽の名也これとて十二
支と云ふ天の至初めれ地の靜をあらよりて未初旬ハ
此十二支と定めりふ二十八宿と二十日支と名付りなり志
くハ二十日支ありふと二十日支と云ふ六天のまゝと云ふ地ハ
方なり方なりとの六圓なりとの角と四方と名付り
十二律もあられし名付り十二支もあらて六乃なり六
めく分なりめくれし名付り本派生して大老と大と生
あて本老と大と生して大老と金と生して老と
水と生して金老と生なりなりあり用とあまの相せあ
るよりりて用と名付り水大相せありと地と名付り

大令相うりて瑞令_レ相_レ淋_レる_レ力_レと_レ形_レり_レ令_レ本_レ相_レせ_レめ_レと_レ
新_レと_レま_レり_レ屋_レと_レ形_レり_レ若_レ瓜_レを_レ一_レ本_レ相_レう_レり_レて_レ五_レ穀_レと_レ世_レ
二_レあ_レお_レち_レて_レ田_レ瓜_レを_レ一_レ等_レと_レ瓜_レを_レ種_レと_レぬ_レふ_レと_レめ_レり_レ
子_レより_レて_レ用_レと_レか_レう_レり_レ耕_レ作_レと_レあ_レ瓜_レを_レ令_レ淋_レ本_レ令_レを_レり_レ
水_レと_レ入_レと_レ苗_レ瓜_レを_レ日_レ大_レと_レて_レて_レ長_レ成_レと_レ令_レ物_レと_レて_レ
の_レゆ_レり_レと_レて_レま_レと_レ瓜_レなり_レ令_レ湯_レと_レて_レり_レ瑞_レと_レあ_レと_レ入_レ本_レよ_レ
大_レと_レて_レを_レて_レ煮_レて_レの_レふ_レ宮_レ南_レ角_レ徵_レ羽_レの_レあ_レ音_レ物_レと_レえ_レれ_レと_レ
り_レと_レめ_レ此_レ樂_レを_レな_レる_レ一_レ日_レ一_レ本_レ大_レ令_レ多_レあ_レ六_レ行_レの_レ
形_レ象_レを_レり_レ宮_レ南_レ角_レ徵_レ羽_レの_レ神_レ聲_レを_レり_レ神_レあ_レり_レと_レて_レ
後_レ形_レ象_レあ_レる_レ一_レ日_レ一_レ律_レと_レ定_レて_レ可_レ事_レ百_レ物_レの_レ用_レ物_レなり_レ
一_レ或_レ同_レ雅_レ樂_レの_レ宮_レ一_レ初_レと_レ宮_レ一_レ終_レと_レ一_レと_レあ_レる_レ一_レ正_レ樂_レと_レ
一_レと_レ分_レ中_レに_レあ_レる_レ一_レと_レの_レあ_レる_レ一_レ行_レう_レや_レ 云_レい_レり_レ一_レの_レ格

法_レを_レ一_レ宮_レの_レ位_レを_レふ_レと_レあ_レれ_レと_レ初_レり_レの_レ立_レと_レ一_レ日_レぬ_レよ_レ五_レ帝_レ樂_レ
の_レ序_レの_レ微_レよ_レけ_レ一_レまり_レと_レて_レ急_レの_レ宮_レ一_レ終_レと_レて_レま_レ五_レ地_レあ_レ終_レと_レ
百_レ物_レあ_レり_レ百_レ物_レあ_レれ_レと_レ事_レあ_レり_レと_レあ_レれ_レと_レ思_レあ_レく_レて_レ八_レ物_レと_レ
内_レら_レと_レ微_レよ_レけ_レ一_レまり_レと_レ宮_レ一_レ終_レと_レ事_レ思_レより_レ思_レと_レ思_レと_レ
一_レ日_レを_レり_レ也_レ同_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ
か_レあ_レく_レて_レ宮_レの_レ首_レ尾_レあ_レる_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ
や_レう_レに_レ後_レ世_レの_レ作_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ
あり_レ伊_レ志_レと_レ分_レゆ_レを_レり_レ

一_レ或_レ同_レ聲_レ音_レの_レ道_レ天_レ地_レ神_レ明_レと_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ
親_レ切_レを_レり_レと_レ初_レめ_レ人_レの_レ物_レと_レ感_レを_レり_レと_レ初_レめ_レと_レあ_レる_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ
法_レ範_レの_レ休_レを_レり_レと_レ初_レめ_レと_レあ_レる_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ一_レ日_レを_レり_レ也_レ
の_レ一_レ行_レを_レり_レ 云_レ爾_レの_レ歌_レを_レり_レ 萬_レ恭_レを_レり_レて_レ天_レ下_レ平_レう_レなる_レの

全くきまをたれよあつた此想作暖氣多し故よ
俗より白く御くいつり私水これ南よりくく一人公
の美なり 同く河をく十月十二月よあつてあを
ありく事ハ河をく 云々氏因新の末の感よりあを
河くくして着きあもくも夫ハきをくれ 同くあふ
ていせを程をくはきぬけもた又くはくもあつ
云々紀綱ゆりまり 諸君長し 士民因新より河ハ紀綱
予とのなり 戦國くわれし戦代の私流りよりあを
軍國よハ我陣の事よあをく用く 諸君のいふを
兵糧よ迷惑くして万事ハ不目也われとのほく人私よ
をあつてあを予とのなり故よ天氣ハもあつて水の私よ
ゆへに私流りなり故よ泰くく横年をくくくく戦國

されん紀綱ありとくあまゆよあつた此想のあつ
をゆりあつてあも私流りもく 諸君をくくくく暖氣も
寒勝も予ハ不目也あつて其間凶年をくくくく寒の
猪ハ暖の猪より一人もはくく物も暖く 又人ハ生あつ
をくれ 礼控くハ治りなる人私世よ迷局して治世を
私くく 賢人君子よあつた此世中くく 寛仁なり
生付の意をあつた人私集して天下と一統をくく 戦國の
名残よ七万軍用くくくされいよく 賢素なり 道德の
紀綱よあつた治世の物もくくく 同くあり
故よ威の想作寒氣多し 同く暖氣をくく人私生
をくくされ人私をくく生く 且くくされ私く人
ありあつたされまされをくく何そ也 云々河をくく

此れを感天地鬼神と爲して疾氣生る人不幸のあり
これと換して多けきと天地の氣と動も疾疫とのたも
のも常ふことあり其の人物の人と感するも窮きくし
人物と化して天地と感して人歎とさひはれなりこれ
礼樂の教をふよれは故に聖人と感して逆氣これと感
をよのつとを思時ありこれ疾風節ありこれ
饑を河ありこれ節ありこれ憂の逆氣と感するもなり
樂礼と云治世の音は春としてをわめり其政和をわたり
故に聖時ありして風節ありこれ穀を熟して人生疾疫
をよ七國の音は春とわめり其疾をわめり故に
行の氣をこれ風節ありこれ穀を熟して人生疾疫
して聖時ありしてこれを河の節なりこれ疾をわめり相事

ありと云く四人あり礼のけきは節なり節のけきは或は
食く或は餘あり有餘の者も考て法も不足のものを
困窮しふも哀情法氣天地を感して不正の氣
生るをよひ礼ありと云く治も樂ありと云く和を礼
といふなりと云く礼は人の公なりと云く和のたまはるを
と云く法を好む食のたまはるを法礼の行
ありと云く樂のたけきと云く礼なり 問天生り地育り
人助と云く礼ありと云く法ありと云く造化の物なり
云法と云く造化と云く法ありと云く聖賢なりと云く天地の氣
を主領するなりと云く和を法なりと云く知と云く法
ありと云く聖賢なりと云く法ありと云く造化と云く物
ありと云く天地の生成して制するなりと云く年ふ熟あり不

熟ありき熟の年の入穀とありて凶年小足ハ人オの任なり
乞賈人君子は徳をくしてと下問と恥天下の知を用てを
阿ハ天下をくくあり我みくも中乃の富三十万石
ころりおく積りて入ノ千貫月毎中ノ二百千貫月
民間ノ六七千貫月所ノ千貫月合くと方二三千貫月
乃銀れをよりしと成るるより天下を合くと銀もあれ
ぬ人なりをより也乞とをそひしてゆさハ天下の士民がくの
ことこれ困窮ハありしと必ひとなり上たこの人ありぬ
こと有りてトに唐君ハまれに公府人も有りて事なふむ
しよりなりれしとときりす一年のを熟十年はひくぬ
年ハ更紗上下より大く成りて乞賈程をくともそのこ
れよりぬく造化とをそくは人功業なりて一を年より

九十月までの間は物とあり十月に入てはまゝを別をすけす
くれ 問ふべく病國ノ金銀ハ有御しきり 云後世の
借銀の言は十分一も天下の金ハありしとありれも損益
此物ハ公更帳たよ留是て後礼示りる

文政九年夏三月二十日於宇治郡細田村家々

中村直衛

集義外書卷十六

水出解

一心大同博文乃儒者也三教一致之見ゆり若かり先生各
別なりとのる可一致と云と道理を記すゆり
若云と記すゆり二六を記すゆり吾道之意愛
して釋氏之意悲と云と記す言語と取合を付一
致ともいふゆりゆり白き物の白くゆり
聖賢も平人もあつた佛菩薩も凡人もあつた凡人も
あつたるをわくともいふゆりあるも凡聖賢の者ハ玉の
白くともいふ善悪の者ハ石の白くともいふ玉は別なり
人は思ひ違ふて善悪をきくゆりゆりも似たり
あるも凡教を三教と云はる別なり白玉ハ白の極なり

のなり白石の白の粧をりとのなりあるもさても此の中を精
粧のみ多し一石の中を人精粧あり何處に習て石を
賣とすも此の粧をりむよりさるをり石をり先とんてを
むりも精をり物とるのさる此の粧をりて此の石を
石は其質ありとく奇なりとん此をりて此の石をり
石ありて此の石をりて其今これより此の石をり
此の石をりてさるも傷なりゆれおあり徳あり人あり
ゆへん此をりてさるて感なりとのをり此言ありさる
なり釋迦より六社をり其言あり徳ありま即此小徳
有り此をりてさる天竺の我をり國なり我をり
人下をり一人心貪着昏沈あり仁義と不知覺
賢の道字傳りて此文字をり禮樂をり以て此をり

をり我をり生れり王侯貴者其國俗と知のり是
れ其國俗と知て教とあり我をり人死をり
むり善しこれとんて思懼ありめく善をり思と
さるりむりて夫人貴賤とく累あり死ありなり
入理と不知あり死後の事なれり此のひも作を
これを死とんて道入りて此のひも作をり
とも善とんて知りて此のひも作をり釋氏一六藏
經の五字の中より此のひも作をり我をり教ありて此の可なり
中國と日本に教あり不可なりあるも此の中國と日本に
千載のりて此の氣運を塞みありて此の運氣の用あり
此法も應ありありて日本に今も此の法ありて此の
法とてさるりて此の法ありて此の法ありて此の法あり

の魂魄を教へしめんとして我國をよひくし可なり日われ
人の仁國をれん然らずく執事ありし沈滞魂魄ありを
の六枚千葉万徳兆の中より一人ふを爲さるる也をよ
一人ありそそ教へしめんとして教へる事をもよなり
神代より格の本を用て格も他つとを葬を用より其遺風
よりして今に夫人より人の多くは土葬なり士庶人もも用
をありそれ日本は上國なりして小國なりしてよふを世に人乃
まざるの百儀より大葬なり小葬なりとて地をくん傷法の葬
礼のよくはして民間の教へるより人地をく材木をく十
つと用へるは或は月或は不用の孝子の恨有りてあま
用ひかたは地材木より百年は後く今も大地の理に
法より傷法なりとてたつとあふ後有りて一人を
かよりか今の寺地の屋敷くをくしとて金に格ありり
つきて後人の公とつと海むつとこれ我國の大葬
と用ひるは主名ありあつと河の傍ありあつと
同大葬とも不用格ありとてを愛もく天下をく用ひ
葬礼ゆりきり云河ありとて可なり後世水をよりして
その人ありて天下をく用てつと法は易簡の者あり出
つきのとて同ありとて我國の法はつと傷法とつとも
日本よりおとをく神道とつと心とつと力をとて源家國天
とつと及んた字ありとつとも云云三種の神代則神
代の経典也上古より書多く文字をく一君臣作ると
そとをく仁の象とつと魂とつと知の象とつと叙と
みく骨の象とつと海とつと知仁骨の三は天下の達徳なり

かよりか今の寺地の屋敷くをくしとて金に格ありり
つきて後人の公とつと海むつとこれ我國の大葬
と用ひるは主名ありあつと河の傍ありあつと
同大葬とも不用格ありとてを愛もく天下をく用ひ
葬礼ゆりきり云河ありとて可なり後世水をよりして
その人ありて天下をく用てつと法は易簡の者あり出
つきのとて同ありとて我國の法はつと傷法とつとも
日本よりおとをく神道とつと心とつと力をとて源家國天
とつと及んた字ありとつとも云云三種の神代則神
代の経典也上古より書多く文字をく一君臣作ると
そとをく仁の象とつと魂とつと知の象とつと叙と
みく骨の象とつと海とつと知仁骨の三は天下の達徳なり

親義別序位乃ハ天下の達道なり天子の親を仁なり
君臣の義ハ勇なり夫婦の別ハ知なりこれと三綱と云云
の序を礼なり礼ハ義の宜よ生え位ハ知仁勇の實理天
道の至誠なり天道造化乃帝より以て元亨利貞也
人性五倫の明徳より以て仁義礼智信なり理本一理也
氣本一氣なりありて天下の主宰なりて達徳と云なり
乃の亦ハ知仁勇の條理あり人ハ六徳ありて身月
は象ありて身月ハ仁なり目ハ知なり
口鼻ハ色ハ勇義の二々今と云ハ人なり分てハはさ
らるるの各ありて皆一心の在りなり 同知仁勇の名ハ
中國聖賢の言なりこれと君臣の儀ありて身月
云知仁勇の徳ありて後名ありて後徳ありて身

月有て後名ありて後徳ありて後身月ありて夫人生て後人
の名ありて身月有て後身月の名ありて中國とてハ身月と
日本に於てハ見えて云云紫ハかりて身月ハ一
なり又二物をかりて後知仁勇の徳ありて上古ハ
名をくして徳行ハありて後世ハ及て教を
起して不徳故とて時の人を名ありて教とすもこの
を人の名と知仁勇の二徳と云日本の神人のこれを二種ハ
神皇の神と云なり神ハ心也紫ハ象なり神國實叙
内侍所の象と云ハ心の二徳と云りしむる經書に
と介神代の文字云紫ハ絶て不侍ひなり二種の象ハ
のりてありて至易至簡なりて及漢字ハ淵源なる
明廣大深を并妙幽玄悠久と云くを徳なり仁法政

敬他よ未だきしして足ぬ各号文字ハ人の造りしを記すもの
を月一ハかたきまとも可也之程ハ神皇正統記ハ中庸
の書よあていなりし上右の神人ハあふともは書と並て
別よ記しりしをいひきくかそ本ハ不徳かきりし不徳の
あり日本の水土にたふれ神代にもうたりし（之我國も
かきりあていそのかきりし不徳唐土の水土よりの聖教も
又日本にたふれし不徳子ことあていし我國の人をよ
しハ佛教も又あていし文字も物理學ハあていし
天地と父母しして生れり人されし中國日本我輩ハ
秋ハ人も道見事也又さる天を一人しして二なり地ハか
よりハ形も地子のこしし是等の中何れ物我ありむ人と
しこ身月口鼻かきりしを記すことハ公の知仁勇ハ皆天理

の二徳しして厚きをきしいつくふううあていしハあていし
まとなり日本の天地ハ金銀多し生れし中國我輩の
者本と未だ其外日本より後して用とをきしし物
まし朝鮮國ハ人參ハ中國（日本）もきしして人ハ
元氣とをきしして中國の文字ハく理と會し字ハ使
あり今佛教の文字ハ号ハ皆中國の文章なり（仏ハ
中土の文字ハ不遍中土の人ハと作ししてあり中土の文
字とありしハ仏ハとひらありあり有る成之く用ハハ理の
不徳なり文字の造りしハ中土朝鮮ハ琉球日本なり
仏ハハ造りしハあていし用ハハ日本にたふれし通
あり理學ハ使あり其上神代ハ文字ハ七ひり字ハ偏
とも字ハ佛とも字ハ理也くふ心廣く成てかきされ

さるる君神代と云へども是等よりさき儒道といかゞせし
治道より神代と云へども儒道は法とかりし不可なり故に日
字の人皇治の法と云へども神代の正心修身
齊家治國平天下を用と云へども一人をさるるの正心全
く備と云へども故なりは法は一人を備と云へども整と云へ
今ハ何と云へどもそのまねなりかゞくしてかゞるハ
神代の法也 同二程の象もいさゝか異なりし時乃神
代乃教家治道ハいさゝか 云々此ハ書なり百物文字なり
云々此ハ書なり日月の書なり 明なりこれ神代也上
世至徳王治の何と云へども何と書と云へども元徳感通して
本氣事を用ひて夜に梅と云へども萬物を百物生と云へ
天氣溫和なりハ書ハ慈愛と教なり父母なりもの慈愛

此ハ何と云へどもと養育と云へども人慈愛此徳ありとて天下
平なり夫婦兄弟朋友ハ慈愛の信よりて相
睦し慈愛と云へども生れの本見なり唯此生れ天
ありとてハ元と云へども人性ハ元と云へども天道乃其教
よめて仁愛の心なり此の同氣同聲同息ハ水
を潤し風を大ハかゞをたけくことハ何と云へども月ハ
世と云へども人愚かりとて天を師と云へども不徳と云へ
ひく象也其日本の象ハ二程乃神代なり唐の象ハ
八卦なり世のりハ書ハ慈愛と云へども故ハ
書ハ其日本國王代乃始ハいさゝか象のまねと云へども
其書ハ其日本國王代乃始ハいさゝか象のまねと云へども
其書ハ其日本國王代乃始ハいさゝか象のまねと云へども
其書ハ其日本國王代乃始ハいさゝか象のまねと云へども

る所一あれも天より考へらるべき法也智をくぬくべし
此家よりくぬくべし久しくはきやくん今の儒学の概ふ
てハ朱子も王学も治道乃明ふなりゆじし國君世に少
用ひ強りけり一審ありて大に用ひ強りて大に審ありて
王学ハ朱子も朱子も格法をく難くゆじし王学若もふ多
くハ格法ふまらぬるゆなり世乃儒学をよりんてハ大
簡めく莊老乃道よりぬくをなすてハ日本の水と
今の河をよりぬくゆじし天下文明の運もてゆじし文學ハ
次より博くなり学者多くなりて福宗律儀をよりせよ
者より一流くぬくありぬのこ 洞佛法ハ易簡なり亦の
日本ハ水とよね思ては法は親と藝法と目のおよ
親の身とやきとて大森をふありぬハ甚不仁なりゆと

是をゆり 云あるとされし我ありてハ世ハ佛法の流世俗
乃智をくぬくべし人をとらるるは又今の時度よ
ふひたりるゆも吾人をとせ乃智をけとてハ内をくも
可なりきをくし我律をく方方七は付ハ城ハ大を物切
矣大の中より入く死をハ義をく欲の手により古郷ふ
ゆり強く棺槨に入るゆは何ぞ外物と必くせん
問作のこくぬく傷法ハすれをぬくゆは賢とゆり人
云君子いよく理を悟く道ハ法ハ法ハ辯也人死して魂
孰ハ天より魄伴ハぬ命ハ是理也上世ハ人死は中
野よとけり骨を葬より棺槨をく是天地の理もあふ
なり後世家屋衣服器物ゆりより骨をくかるとい
とも俄よととに生けりふ不忠信あり故ハ本を成ひ

より節をきりてかゝるをたゞ先よりは情や財よりてむなる
るるれば後世の凡人棺槨の別とをりてはくもよくお
合するの理も死も事ゆへにせし事ゆへにせし事ゆへに
孝子の情をりて天賦と骨をりて生瓜瓜とくく世瓜をりて
死とゆへに死生は世報の区をりて命とゆへにむくく死と
疾しむくく理をりて死とくも別とをきくく人の情
をりて儀とく神をりて理をりてくく黄帝堯舜をりて
情をりて子三王周公孔子の情をりてくく理をりて
周の代は天地ひりきくくくくくくくくくくくくくくく
北と天地の物と生瓜瓜をりてくくくくくくくくくくく
水たのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
外と人欲のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
礼文

法武修多作くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
秋と物と死とゆへに其財をりて礼文ありていさくく
ゆへに及んたりてありて後世も及て改令道と失ひ
て人公正くありて海の氣不煩りて地の物と生
をりてくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ていぬをりて是故に人民多欲に成く情をりて成りて
其國もよひてくくくくくくくくくくくくくくくくくく
をりて其財をりて其財をりて其財をりて其財をりて
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
留有りていさくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆへに及んたりてありて後世も及て改令道と失ひ
たりて其財をりて其財をりて其財をりて其財をりて

作事あり大葬のりんをゆるげ佛者も去葬をふめと
戒じふとありこれに忠公あふの葬いといゆるむや
云律書に棺と棺槨を修りての事と上世人をくれく
材木法山と云死ありありありやとありて時の中なり
今の河原人の末くゆるむ棺と用ひ墓と深くと葬と
きんりん成るとるをきり山中此氏新垣本とありて農業
いまゆるこの三日れ食を一日備を申すその明日
の食を一日の三日れその費万倍といふ教ありしるまよ
りまされかとの八庶人中乃為とありとも一衣と云いとい
ば人を死のまよ一茶と食を食はまれなりかとの三日れのみ
上より葬の財用とくくし終りては成りては派をきり
されし今の坊とて八時といふたり一茶たりれ用節せ

られて財用を終りたるありとありて二十自二十の用ひ
葬は去死をきりてありと云死の國よりを死にあり
上のちりくと加くと百年なりとありて成をきりて終りとも
山林の精力はきりてこれ材用ありとありて成りて大葬三
あり日なりと世人多く去死をきりて終りてをきりて
西と云おと成りて成りての事いんや百歳の用ひ人むつり
うるとも墓もとも不知なりといふと念と入て葬るるその
掘りおきて後乃うきひありともこのいひの厚と欲て
情と安し日本の今い高きと欲く情と安り厚理なり
をといひ百有なり人なりとも六七十年血氣の去死の分間
ふよを付て去死をきりて後いともやくと云念して理の成
よりなりと欲く孝子情と厚なりとも去死をきりて

ろと月ひく首と折のらとむと知とく葬らる可なり
問答の八極と月ひ食ととのむとろと月ひの親と
孝とを食と食として成るは恨のむと云理と云し世
下し生る時の飲食衣履家屋器物等一切をて百丈食徳命
夫なり恨のむとんや死むをきかをりたま食を
い程をりあつておほふ孝子情なり棺とけりわつ
そりらん式ハ情と云一或理よ安まをぬと其と所
ゆ人の哀れと云くも二三の形とおひつと復るの
りなり 問を身傷法と云執りて足徳道はたさる
礼のり也とのとも葬れも葬れの法より徳を死と送る
はのりなりなり 喪の作法ハ十の一二も足徳を祭りの作法
略義をくもたさく作り傷法と月ひやくするハ喪祭

とふ牛角と月ひなるをり一方月ひと一方かむより二
をくを祀とよくゆん祭なり易く喪や居るは故
なり一 云是と又日本の水とをり日本ハ別文字を日
本と云く陽國なり小國なりハ陽乃多祀なり故よは
玉の人の恨ひ多しと哀ひ少し祭ハ告礼として悦也なり
日本は人これと好なり一也祭礼の精一也ゆは
今にのりてあふ祭礼なり葬礼もなれたるはるなり
ゆはは法よりつりて飾り神職は精一也あをる
もあましく今時夫をれ食うと葬礼ハ凶礼なり日本の人の
礼儀よ不備なり茶なり天皇ハ月民國といひて死のををり
月のくあくあつて和也法をぬは哀ひ多しと悦ひ少し
祭礼も死と送るは葬礼は精一也故と云ふと云帝といひく

憂ひ多きなり西と云り若狭をさしつゝ日本に葬禮の
をせしむるなりと云く佛法は祭礼をいふなり祭礼の
なりと年期月期をさしつゝ此儀なり故に其声は憂
ありて死戒の結を執見く日本の粗をふかされんを
仏教の礼は粗く粗きをなくぬなりと云く未だの中を
此は悦樂哀戚よりふり是故に喪祭の礼をひつ
りて佛法のさしつゝ神武の祭法ありて日本此今の祭
大社生而神をくもり少く人の親先祖は用ひて
ひつて祭礼は志あふ人の儀の神を信じてこれとこれと
もつて佛法はつけて用ひてありてあり日本の水を人情
よありてあり神く用ひて久しう祭法ありん後の君子
と云ふなり 同後の君子は信じて用ひてあり又後の人なり今日

自分も用ひてありてありしゆんや 云物の初は誠ありて
礼なりなり然しと云く大社の祭より喪祭を加へりて
中をとりたり也今の附士民もふるふをくいと用ひ
執力ありてありてありてありてありてありてありてあり
目とふ祭を可なり 同戒は用ひてありてありてありてあり
目とふ祭のあり又痛札先養とてありてありてありてあり
ふありてありてありてありてありてありてありてありてあり
りしや 云日本は神道と云く一夜神ありてありてありてあり
ふありてありてありてありてありてありてありてありてあり
えれりてありてありてありてありてありてありてありてあり
れりてありてありてありてありてありてありてありてあり
りてありてありてありてありてありてありてありてありてあり

乃復有り春秋の祭ハ親先祖の神ト云ふ故ハ潔斎する也
同期日の祭ハ上古ハを祀る也中をりの日也を祀る也
云ハ理也故有り又母祀して三年此等の祭ハ凶祀有り三年
こそハ昔は産を祀るの理也云ハ凶祀とまじりて
後方の祭有へり同期日の祭ハ厚祀ハ少の祭も理ハ
亦何有れども世より同期日の祭と今やむ言ふは
後世神を敬ふの礼ハ人皆祭ハ誠敬と云ふ所ありハ
その儀もやむべし今やその人皆祭するなるもあらん止
所ハ此も何ありべし同期日運養て人の氣力よく使
ふく事あるも儀有りといふも有べし云ハ此に地を
いふは夏とソハ冬ととき々日本のおうまを祀ると是
有り田を二年並三年並く作ゆると云ハ此に地を

云と云え有り 云運氣少く人此を祀るの儀ありハ
同じことハ漢の代ハあまり不國といひわく有り云ハ
戎狄の難多く毎な戎陣して人此を祀るの儀ありハ
この故ハ否塞此運ハ尚多といふも人多地を祀るを
やらん葬の地ふめいしなる一事と云ハ此に地を
書然るを云 同人多死するハ中國も葬の代有り云
云府ハ中より中興の明王聖の治世久しく戦死多し
地を祀るの儀ハ人道の凶と感ハもて天地の氣も
清明をれと云の運氣も少く次實に人も多く死す
てよ人出べし 同人多死するハ中國も葬の代有り云
云とも云ふよりハ地獄極木の統と云ハ此に地を
云ハ此に地を祀るの儀ハ今時ハ俗と云

くさるかていさきさ 云せめくさあ〜ハ可なりんとの佛
者ハ悪人と満ちとのなり凡ハ小悪とまり小悪ハ大悪人
とを分とのありいんをれを極重悪人ニ他方便唯称
弥陀得生極樂の經文と引て云々親と教〜たる悪人ニ
之念修の功力を成佛と云ふ〜善行を修〜戒と持
を却て難行なり地獄ニ落〜こひまれ〜と記惡癡
乃凡文學文禮行惡障の善行のす〜ぬとの外れを爲よ
如来此方便を〜一念の念修を極善と云ふ〜しり修せよ
一向宗是〜同日蓮宗も念修此月のうりをもて
吾派やめ惡派教なり〜同〜是惡人のゆ〜と世をなり
そのま〜に〜とけハ人々天性ハ良あり〜と惡とあり不
義と云くむ〜良知ある〜惡人といはれ〜一念ともを修る

之のなりあるは〜と記惡派を〜とゆ〜と記
公とを事ハ〜是修りなり〜と介法宗た小惡とを
るハ同前なり極善惡人〜と惡とを分とのありし〜と
物をも何れも物乃〜と惡〜と云〜人々〜と
惡癡をれハ道理と云ふ〜と〜と〜念修
より介他乃方便を〜と云〜又ハ極善惡人〜と惡逆
之道乃若のり〜と記惡癡を〜と云〜と
戒戒ゆ〜云々善障を〜と云〜と云々文字と云々
〜と云々〜文字を〜と云々〜と云々
釋迦惡をやめ善法を〜と云々〜と云々
名法流乃〜と云々〜と云々〜と云々
れを何〜と云々〜と云々〜と云々

此因果なりこれとてふ因果はさるるをせざるなりとせざるを
しけりといふは善悪業をりしむ何ぞ世間の之を善ん
と身とんねくたよ氏とあへけり留まらむとせざるなり
一 天台云言はく罪をせしむれども我情邪知を
そくりふふをりとあくそいかりきたりそく自化の功利の
公とますのく功利と長なるい思れみかもとて思まをり
りも極重悪人となるものい思痴を知らし生付よいあく次
才知平人よそくれば非とかりて思れけ人とあなるもの
大悪人といなるものなりまうれとの念佛とて思れまなる
此思をり事と信するものい思しぬ一 思痴蒙昧のこのハ
大悪とせざる才力いなり故も佛説の極重悪人を思蒙れ
人々りなるものとあなるなり聖賢は神代よかくのこのくの
せざるものなり

文政九丙戌春正月二十五日於宇土郡郡補永手
網田村山中官邸公暇之間之写之

中村直衛

